

2013年3月20日  
於：本郷体育館  
東洋学園理事長 江澤雄一

## 卒業式祝辞

東洋学園大学の卒業生の皆さん、大学院で学位を授与された皆さん、そして、ご両親、ご家族の皆様、本日は本当におめでとうございます。私は本学の理事長としてこの栄あるご卒業の日に一言お祝を申し上げたいと存じます。

日本の経済界は今、安倍総理の掲げるいわゆるアベノミックスで明るい雰囲気つつまれています。長いデフレの下で生じた円高が是正されて企業の業績が改善し、株価も高値を更新しています。日本銀行の新総裁が任命され、大型の補正予算も組まれて、景気回復への期待が高まっているように思われます。卒業生の皆さんの就職も昨年より好転していることは嬉しいことです。しかし、今注目されている金融の緩和や財政の出動はあくまで経済に対するカンフル剤であって、日本経済を本当に立て直すためには、より基本的な成長戦略が必要であると思います。

日本は少子高齢化が進み、人口は2008年をピークとしてすでに減少してきています。このような人口減少社会で経済の活力を維持していくのは容易なことではありません。もちろん女性の雇用を拡大したり、外国人を活用していくことも必要ですが、何といても日本全体の生産性を向上させ、少ない人数でより付加価値の高いものをつくり出していくようになることが重要です。つまり、新しい商品サービスや新しい生産プロセスを開発していくことが必要であり、そのためにイノベーションを活発化していくことが重要であるということです。アベノミックスでも、まさにこの民間のイノベーションをいかに喚起していくかが成長戦略としての大きな課題になることと思います。

そこで、これから実社会に舟を漕ぎ出す卒業生の皆さんに私から呼びかけたいことは、「起業家精神をもて」ということです。アメリカでは学生時代に事業を起こして成功した人が沢山います。マイクロソフトのビル・ゲイツやフェイスブックのマーク・ザッカーバーグが学生時代に友人と新しい会社を立ち上げたことは有名です。我が国でもミクシィの笠原社長は学生時代に起業したと聞いています。日本では若くして起業するにはいろいろ困難があることは事実ですが、社会の仕組みも新しいイニシアチブを生かすように次第に変わっていかねばならないと思います。

そればかりでなく、会社に就職して組織の一員となった場合でも起業家精神をもつことは重要です。仕事をいかに効率的にまた付加価値を高める方法で達成するか、自分なりに工夫してイノベーションを発揮する余地はいろいろあると思います。自分が社長だったらどうするか、と考えることも重要です。大会社は仕事のやり方が決まっていて新しい提案をなかなか受入れてくれないかもしれませんが、会社が発展していくためには現場の声を柔軟にとり入れていく必要があります。時代の大きなうねりに遅れをとった場合、大企業といえども安泰でないことは、いくつもの具体例があるとおります。

新しいことへのチャレンジという意味では、国際ビジネスや国際キャリアを目指すこともぜひ考えてほしいと思います。日本の企業は国内市場が縮小していく中で、生き残りをかけて海外市場に展開しようとしています。文化や習慣のちがう外国でビジネスを成功させるには、語学力もさりながら、現地で生じた問題に積極的に取り組んで現地の状況にふさわしい解決をはかるという、起業家的な発想が必要になってきます。日本企業にとっては現地に根づいたビジネス展開をはかることがこれからますます必要になってくると考えられます。

起業家精神とはむずかしいことではありません。仕事への気持の持ち方として常に一歩前を出て、全体を見渡し、新しいチャンスをつかもうとする意欲をもつことだと思います。一人ひとりのその前向きの姿勢が日本を変えていくのです。東洋学園ではこれまで教養教育に力を入れてきました。そして変化のはげしい時代に新しい問題に直面しても、自分で考え、判断し、行動できる力、「人間力」とでもいうべきものを育てるよう努力してきました。卒業生の皆さんが新しい仕事にとり組むに当たって東洋学園で培った「人間力」を発揮していろいろな課題に積極的にチャレンジしてくれることを期待しています。

本学の卒業生ですでにいろいろな分野で活躍している先輩も沢山います。大企業だけでなく、IT分野での特色ある会社やアフリカと日本の架け橋になる NGO など、やりがいのある仕事についている人が居ます。このような東洋学園の絆を大切に、先輩、同級生、後輩とのつながりをはぐくんで下さい。友人としてもビジネスの面でもきっと役に立つことが多いと思います。そして東洋学園の卒業生のネットワークが将来大きな力を発揮することを期待しています。

では皆さんお元気で。今後のご活躍を心からお祈りしています。